

令和4年度 調布市立調和小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標

豊かな心のハーモニーを奏でる学校
 すべての児童が社会の変化に主体的に関わる中で、自他の幸せを希求し、自己実現を果たすことができる基盤をはぐくむことができるよう、教育活動を推進していく。

- 1, 心もからだも健康な子（心とからだのハーモニー）
- 2, よく考え、学び合う子（学びのハーモニー）【学力の向上】
- 3, 力をあわせてやりぬく子（協力・協働のハーモニー）

目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像

- (1) 児童が学びたいと思う調和小
- (2) 保護者が通わせたいと思う調和小
- (3) 教職員が勤めたいと思う調和小
- (4) 地域が誇りに思う調和小

ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)

- 児童が学びたいと思う学校
 - ・楽しい、分かる授業が実践されていること→授業が楽しい。同時に全児童が基礎知識、基礎理解を習得できる。
 - ・授業中の失敗を恐れず、わからないと児童が言うことのできる安心して学べる教室環境、信頼関係の構築
 - ・児童が主体的に学習活動ができること・・・自ら興味や関心をもち、解決したい課題を設定できるセンスを培い、手立てを考え、仲間と協働して解決する経験値を高めるという総合的な力や経験値を高める。
 - ・学力の2極化への対応・・・個の実態を把握したうえで、複数のスタッフが指導の方向性や方法論を共有し、児童が1点でも一点でも向上することができる授業や活動の展開。
 - ・探究的な学習活動や特別活動等を心掛け、学年の発達段階に応じた、児童が自ら目標に向けて解決しようとする時間、種まき、機会を意図的に設定し活動を進める。
 - ・道徳の時間をかなめとした全活動における心の教育の展開で、児童どうしの心が安定して学びあえる学年学級
- 保護者が通わせたいと思う学校
 - ・安全で児童一人一人が大切にされる。いじめや暴力などが無い。
 - ・確かな学力をつけてくれる。
 - ・児童が楽しく学校生活を送り健やかに成長できる。
 - ・教科学習をはじめ特別活動、道徳等様々な機会を通じて集団の中で思考し、判断し、行動することを通じ児童が互いを尊重し、心身ともによりよく成長できる。
- 教職員が勤めたいと思う学校
 - ・前向きな心を持ち、自ら課題を見出して、互いに切磋琢磨しあいながら解決への努力を続けられる教員集団。
- 地域が誇りに思う学校・・・地域と協働し、人材を生かし、開かれた学校

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 ・言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【1年】日常生活において話の要点を聞きとったり伝えたいことを伝えたりすることができるように、全体・グループ・ペアなど様々な学習形態を取り入れた指導を行う。 【2年】話の内容をとらえて感想をもつことができるように、伝えたいことを話したり声に出して確かめたり感想を述べたりする活動を取り入れる。 【3年】場面の移り変わりを捉えたり、文章の構成に着目して読み取ったりできるように、全文シートなどに線を引いたりつなげたりする。言葉集めをして語彙を増やす。既習事項の振り返りを行い、それを基に学習と結び付けて考えている児童を価値付ける。 【4年】大事な言葉や文を捉えながら読み取ることができるようにする。会話や行動に登場人物の心情が表れている部分に着目することを意識させて指導する。国語以外の授業でも辞典を使う機会を設ける。普段から辞典を引く活動の場を取り入れる。 【5年】叙述に沿って重要な語句を捉えたり、要点をまとめる活動を重視する。書いて伝える活動を通して、自分の思考や思いをまとめる力をつける。敬語、慣用語などの基礎的な学習を重視し、日常の中でも語彙を増やして使えるようにする。 【6年】日常生活の中から話題を見付け話す。伝えたいことを明確にしてリーフレットなどを作成する。書き手の事実や感想、意見などに着目して文章全体の構成を捉え要旨を把握する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解する。 ・様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。 ・社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その理解に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 ・社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養う。 ・多角的な思考や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【3年】地域や自分の住んでいる市の様子について、人々の生活との関連を踏まえて、理解するとともに、調査活動や具体的資料を通して、必要な情報を調べてまとめられるようにする。 【4年】資料の読み取り方を丁寧に教え、読み取る練習を重ねていく。ペアやグループで読み取ったことを共有することで、読み取りを確実にする。 【5年】児童の疑問を基に学習問題を立て、児童が主体的に問題解決できるようにする。また、問題解決するための有効的な資料を提示し、児童が資料を読み取る時間を確保するとともに、グループで共有したり、話し合ったりするなど協働的な学びを行い、児童の資質・能力を育成する。 【6年】児童の疑問から学習問題や学習計画を立て、主体的に問題解決できるようにする。教科書や資料集にある知識と社会情勢を関連付け資料を提示したり、調べさせたりして多角的な思考を働かせられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。 ・日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決をしようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【低学年】具体物などを用いて問題場面を視覚的に示し、イメージしやすくする。演算決定の基となる言葉や数に印を付けたり、半具体物を操作したりすることを通して、数量や数量関係、図形の性質に着目して考え、的確に表現できるようにする。 【中学年】既習事項の振り返りを丁寧に言い、それを基にして考えている児童を価値付ける。図や式、表、グラフなどそれぞれのよさに気付かせ、様々な場面で適切に活用できるようにする。 【高学年】考え方や意味に重点を置き、常に既習を基にして考えることができるよう、既習との関連性について振り返る時間を設ける。問題場面に応じて、図、式、表、グラフ、言葉などを適切に用いながら処理、説明をしたり、それぞれの表現方法を関連付けながら考えたりすることができるよう、複数の考え方を比較検討させ、それらを活用するよさに気付かせる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。 ・自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【3年】観察の視点を示すことで、具体的なかき方を指導する。問題を見いだす際、自然の事物・現象を比較し、差異点・共通点を明らかにする。 【4年】自然の事物・現象と既習事項や生活経験を関係づけて予想を考えるようにする。また、グループで話し合い、予想を立てる時間を確保する。 【5年】実験や観察をしていくうえで、妥当な方法を計画できるよう、方向性を明示する。具

	る態度を養う。	体的には、制御すべき要因と制御しない要因を区別する。 [6年] 結果を基に、論理的思考に基づいた考察を書けるよう、おさえるべきポイントを明示する。自然の事物・現象を複数の観察結果や互いの予想から考えるようにする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴のよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現できるようにする。 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。 	<p>[1年] 具体的な活動や体験を多く取り入れ、自分なりの気付きや疑問をもてるようにする。子供たちが気付いたことや興味をもったことを基に、授業を展開し、分かったことや考えたことを発表する機会を多く設ける。</p> <p>[2年] 学校や家庭、地域の生活に関わることを通じて自分自身と身近な人々、自然との関わりについて考えることができるようにする。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽を表現するために必要な技能を身に付けるようにする。 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。 	<p>[1年] リズム楽器を用いたり、曲に合わせて身体を動かしたりすることで、音楽と楽しく関わられるようにする。</p> <p>[2年] 友達と合わせて楽器を演奏することで音楽表現を工夫できるようにする。リズム打ちを通して拍や拍子を感じられるようにする。</p> <p>[3年] 副次的な旋律を楽器で演奏するなどして、各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて音に合わせて演奏できるようにする。音楽を聴いて曲の特徴や感じたことを言葉で表現する力をのばす。</p> <p>[4年] 副次的な旋律を歌い、互いの歌声を聴いて歌えるようにする。音楽の要素を提示することで、音楽の特徴と自己の感性を結び付けて表現や鑑賞することができるようにする。</p> <p>[5年] 学級や学年での合唱・合奏を行い、音楽に対する知識や技能をのばすとともに、音楽を演奏することのよさや大切さについて活動を通して考えられるようにする。</p> <p>[6年] 日本や世界の音楽に親しむことで音楽文化を知り、生活や社会の中の音や音楽に関心がもてるようにする。学校行事や総合的な学習の時間と連携し、音楽に思いをのせて表現することで情操を培う。</p>
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などを捉える造形的視点について、自分の感覚や行為を通して理解し、材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的につくったり楽しんだりすることができるようにする。 創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりできるようにする。 つくり出す喜びを味わい、感性を育み、よりよく学ぼうとする意欲や、学習の仕方を工夫する態度を養い、豊かな情操を培うようにする。 	<p>[1年] 表したいことを見付け、形や色、材料の特徴に着目し、そのよさを感じながら表現することを楽しめるようにする。</p> <p>[2年] 形や色、材料の特徴に着目し、創造的に発想や構想をしながら表現することを楽しめるようにする。</p> <p>[3年] 自分の感覚や行為を通して、正しい用具の使い方を学び創造的につくったり楽しんだりできるようにする。</p> <p>[4年] 自分の感覚や行為を通して材料や用具の使い方を工夫し、自分の見方や感じ方を深められるようにする。</p> <p>[5年] 学習の仕方を工夫し、表し方や、自分の見方や感じ方を深められるようにする。</p> <p>[6年] つくり出す喜びを味わい、学んだことを学校生活に生かすことができるようにする。</p>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて日常生活に必要な理解を図り、そのための技能を身に付ける。 日常生活の中から課題を見つけ、実践的に解決したり、考えたことを表現したりする。 家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的態度を養う。 	<p>[5年] 身近な生活の中から課題を見付け、学んだことを実生活に活かしていく学習の流れを大切にいく。家庭科の学習と日常生活との関連を図り、実践的・体験的な学習になるように工夫する。友達と体験したことや考えを交流し、生活課題を意識したり実生活に応用したりすることができるようにする。</p> <p>[6年] 自分の生活を振り返り、友達との交流や学んだことを実生活と結び付け、よりよい生活のために創意工夫することができるようにする。学習したことと日常生活との関連を図り、実践的な学習になるようにする。</p>
体育	<ul style="list-style-type: none"> その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付ける。 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し、判断するとともに他者に伝える力を養う。 運動に親しむとともに、健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。 	<p>[1年] 教具や場を工夫し、各種の運動遊びを通して、楽しみながら基本的な動きを身に付けることができるようにする。</p> <p>[2年] 教具や場を工夫し、楽しみながら、基本的な動きや技能を身に付けさせる。</p> <p>[3年] 自己の運動の課題を見付けられるよう、タブレットや掲示資料などを活用しながら学習の振り返りをする。また、活動の工夫ができるよう話し合いの場を設定する。</p> <p>[4年] 自分の能力に適した課題をもって運動に取り組みるように、タブレットや資料、学習カードの工夫をする。また、技能のポイントを互いに見合い、話し合う場面を設けることで、学び合う環境をつくっていく。</p> <p>[5年] 学習の流れやめあて、技能ポイントなどを掲示資料として示し、児童同士が学び合えるようにする。学習カードや掲示資料などで学習の振り返りをしたり、技能ポイントを振り返ったりすることで次の学習に生かしていけるようにする。</p> <p>[6年] 学習の流れやめあて、技能ポイントなどを掲示資料として示したり、ICT機器を有効的に活用したりし、児童同士の教え合いが深まるようにする。学習カードなどでの振り返りを大切に、次の学習に生かしていけるようにする。</p>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付ける。 場面や状況に応じて、聞いたり話したりと音声に十分慣れ親しみ、外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり書いたりして自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる力を養う。 外国語の背景にある文化の理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<p>[5年] AETと連携を図りながら、外国語を聞いたり、語句や表現を発話したりする機会を学習の中で多く取り入れ、外国語の音に慣れ親しむとともに、慣れ親しんだ語句や表現を使って書く活動を行っていく。また、目的・場面・状況を明確に設定し、自分の考えや気持ちなどを既習の語句や表現を使いながら伝え合う活動を通して、児童の主体的・協働的な学習を目指す。</p> <p>[6年] AETと連携を図りながら、外国語を聞いたり、語句や表現を発話したりする機会を学習の中で多く取り入れ、外国語の音に慣れ親しむとともに、慣れ親しんだ語句や表現を使って書く活動を行っていく。また、目的・場面・状況を明確に設定し、自分の考えや気持ちなどを既習の語句や表現を使いながら伝え合う活動を通して、児童の主体的・協働的な学習を目指す。</p>
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値観について理解できるようにする。 自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深められるようにする。 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を養う。 	<p>[1, 2年] 児童の実態に合わせた発問をしたり、道徳的価値観を一人一人が考えられる時間を十分にとったりする。また、友達の見聞にふれる機会をとり、自分の考えを深められるようにする。</p> <p>[3年] 児童が多様な感じ方や考え方に接することができるよう協同する場面を設定する。また、児童の実態に合わせた発問を通して自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。</p> <p>[4年] 児童が自己と向き合い、物事を多面的・多角的に考えたり、多様な感じ方に接したりすることができるよう、協同する場面を設定する。実感を伴って、道徳的価値観に迫られるようにする。</p> <p>[5年] 児童の実態に合わせたワークシートや資料の提示方法を考え、主体的に学習に取り組むことで自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深められるようにする。また、多様な価値観に関して、自分を見つめる時間を取り、様々な自分との関わりを見つめ直す。</p> <p>[6年] 他者の多様な考え方や感じ方に触れるようにする。ICTを活用し、児童一人一人の思考を可視化し、共有できるようにする。教員が教材を多面的に捉え、複数の道徳的課題を見だし、児童の実態に合わせて活用する。</p>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 言語や文化について理解し、日本語と外国語との音声の違いに気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ。 簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 	<p>[3年] 映像資料や音声、AETとの関わりを通して、世界の文化や言語に触れたり、日本語と外国語の音声の違いがあることに気付かせたりする。音声を聞かせ、繰り返し言う活動を十分にを行い、発話への意欲と自信に繋げていく。ゲームや体験的な活動を多く取り入れ、英語でのコミュニケーションの楽しさを味わわせる。</p> <p>[4年] 映像資料や音声、AETとの関わりを通して、世界の文化や言語の違いなどを考える。様々な形態で活動を行い、相手意識や目的意識をもって伝え合う機会を設ける。簡単な内容で、かつ、伝える必然性のある場面設定をし、相手の反応を感じながら、反応したり、質問したり、双方向の伝え合いができるようにする。</p>

